

11月 1日 (日) 歴代上 29章	「このような寄進ができるとしても、わたしなど果たして何者でしょう。…すべてはあなたからいただいたもの、わたしたちは御手から受け取って、差し出したにすぎません」(14節)。ダビデは神殿建築のために金や銀を献げたが、それらはもともと神のものを差し出したに過ぎないことを知っていた。今日、心の深いところからの感謝を献げることができますように。
2日 (月) 歴代下 1章	「今、このわたしに知恵と識見を授け、この民をよく導くことができるようにしてください」(10節)。神から「何事でも願うがよい」と言われてソロモンは「知恵と識見」を求めた。もし神から同じことを言われたら、わたしは何を求めるだろうか。主イエスは「神と富とに兼ね仕えることはできない」と厳しく釘を刺された。第一のものを第一に求める信仰を、今日与えてください。
3日 (火) 歴代下 2章	「主のために神殿を建てようとするわたしは何者でしょうか。神殿はただ主の御前に香をたくためのものでしかありません」(5節)。神殿建造の栄誉と賞賛に囲まれる中、ソロモンは自らの小ささと、どんな大きな神殿も神には小さすぎることを自覚していた。私たちがすべきは、天にもおさまらない神に「香を炊く」、つまり朝夕に絶やさず祈りと賛美をささげること。
4日 (水) 歴代下 3章	「ソロモンはエルサレムのモリヤ山で、主の神殿の建築を始めた。そこは、主が父ダビデに御自身を現され…」(1節)。ダビデが人口調査の罪(兵役男子を数えた罪)を厳しくとがめられて悔い改めの祈りをささげた場所に、ソロモンは神殿を建てた。私たちの礼拝は神の前に低くされる礼拝となっているだろうか。一番大切な悔い改めを求める信仰をいただいて。

<p>5日 (木)</p> <p>歴代下 4章</p>	<p>「フラムは壺、十能、水盤を作って、ソロモン王のために神殿でしようとした仕事を終えた」(11節)。隣国ティルスから招かれた職人フラムは、礼拝祭具を一つ一つ鑄造し、美しく仕上げた(16節)。純金や青銅で作られた祭具は美しい輝きを放っていたことだろう。しかし「主が求めるのは憐れみ」(マタイ12:7)である。主が求める憐れみをまずささげる者とされて。</p>
<p>6日 (金)</p> <p>歴代下 5章</p>	<p>「ラッパ奏者と詠唱者は声を合わせて…『主は恵み深く、その慈しみはとこしえに』と主を賛美すると、雲が神殿、主の神殿に満ちた」(13節)。新しい神殿に主の契約の箱を迎えて民が心からの賛美をささげると、雲が神殿に満ちた。雲は荒れ野の旅を導く主の臨在の象徴(出40:35)。礼拝の真ん中には荒れ野の旅に伴う方の恵みと慈しみがあることを覚えて。</p>
<p>7日 (土)</p> <p>歴代下 6章</p>	<p>「わが神、主よ、ただ僕の祈りと願いを願みて、僕が御前にささげる叫びと祈りを聞き届けてください」(19節)。天地を造られた主が神殿に住まうことはない。しかし主は神殿に集う者一人ひとりに目を注ぎ、その叫びと祈りを聞き届けてくださる方。それだけでなく神殿に集うことができない者の叫びと祈りに耳を傾けてくださる方。この方が礼拝の真ん中にいてくださる。</p>
<p>8日 (日)</p> <p>歴代下 7章</p>	<p>「その夜、主はソロモンに現れ、こう仰せになった」(12節)。ソロモンが主の神殿と王宮を完成した夜、主は、ソロモンの祈りに答えて語った。『今後この所でささげられる祈りに、わたしの目を向け、耳を傾ける(15節)』しかし、『他の神々にひれ伏すなら、わたしのために聖別したこの神殿もわたしの前から投げ捨てる』とも。どちらになっていくのだろうか。</p>